



CSV戦略

2

新梅田シティ(大阪市)の緑地空間「新・里山」

## 生物多様性の保全

事業の影響力を考慮し、持続可能な自然資本の利用によって生態系ネットワークを守る

重要なステークホルダー

サプライヤー(植木生産者・造園業者、木質建材メーカー)、お客様

### 背景

#### 住宅の植栽が都市生態系に影響を及ぼす

都市化の進行によって緑地が減少してきた中、全国各地で緑化の取り組みが広がっています。都市域における効果的な植栽は生態系の保全につながるだけでなく、人々の憩いの空間を創出して地域を活性化し、雨水を貯留して都市型水害を抑えるなど、多面的な機能を持ちます。こうした緑の多様な働きを、さまざまな社会課題解決のための基盤として活用する「グリーン・インフラストラクチャー」の考え方が今、注目を集めています。

住まいづくりにおいても、植栽は不可欠な要素です。毎年多くの樹木が、全国各地で庭木として植えられています。しかし、見栄えや管理の容易さから選ばれることの多い園芸品種や外来種の樹木は、地域の鳥や昆虫にとって活用可能性の高いものばかりではなく、日本の気候風土に適さず、病害虫への耐性が低いものも少なくありません。地域の生態系を守っていくには、植栽にも生態系に配慮した樹種の選定が必要です。

#### 木材調達でのトレーサビリティ確保の重要性

木材は、構造材、内・外装など住宅を支える重要な素材であり、積水ハウスは毎年30万m<sup>3</sup>以上の木材を使用しています。しかし、生物由来の原料である木材は、住宅に使われる数万点の部材の中でも、流通経路の複雑さに鑑みてトレーサビリティの確保が最も必要な材料です。

近年、海外では旺盛な需要に対応するために許容量を超えた伐採や、森林保護地域などの禁止地域での伐採、盗伐・密輸などが大きな問題になっています。こうした違法伐採は、生態系の大規模破壊や地球温暖化の進行など、森林の持つ多面的な環境保全機能に影響を及ぼすだけでなく、地域住民の生活の破壊や木材市場の歪曲、持続可能な森林経営の阻害など、社会面でも多くの悪影響をもたらしています。こうした状況を受け、日本では2016年に「合法伐採木材等の流通及び利用の促進に関する法律(クリーンウッド法)」が制定され、合法伐採木材の利用に対する義務付けが、これまでの公共調達から、民間の取引にまで拡大されました。

### アプローチ

#### 目指す姿

#### 長期的なシナリオのもと、サプライチェーンと協働して、生態系の保全を推進

日本のプレハブ住宅メーカー最多の住宅を供給する積水ハウスは、毎年約100万本に及ぶ樹木を植栽している日本最大規模の造園業者でもあります。こうした観点から、2050年のチャレンジ目標として「事業を通じた生態系ネットワークの最大化」を掲げ、地域の生態系の保全に貢献する植栽の推進と、世界の生物多様性の保全につながる

持続可能な木材調達に注力しています。

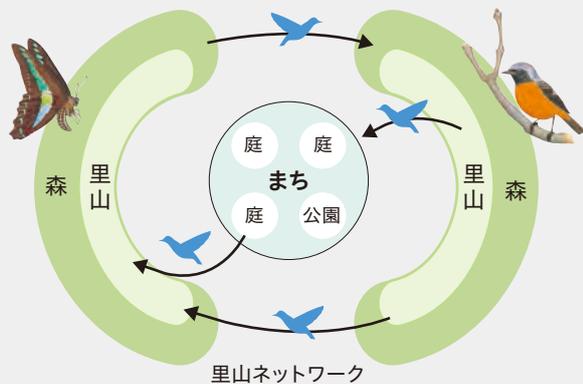
自然資本や生態系の成熟と回復には長い時間を要します。また、こうした取り組みは一社で完結するものではありません。当社は長期的なシナリオのもと、サプライヤーと協働してお客様に豊かで心地よい暮らしを提供するとともに、地球環境の保全と持続可能な社会の実現に貢献していきます。

活動方針

**1 「5本の樹」計画による、地域の生態系に配慮した在来種植栽の推進**

園芸品種・外来種のみを多用せず、生態系に配慮した、地域の生物にとって活用可能性の高い「在来種」を積極的に提案する造園緑化事業を「5本の樹」計画と名付け、2001年から推進してきました。

計画の実施に当たっては地域の植木生産者・造園業者のネットワークと連携し、従来は市場流通の少なかった在来種の安定的な供給体制を確保。生き物と共生する暮らしの豊かさと、環境保全におけるその意義を、生活者に提案していきます。

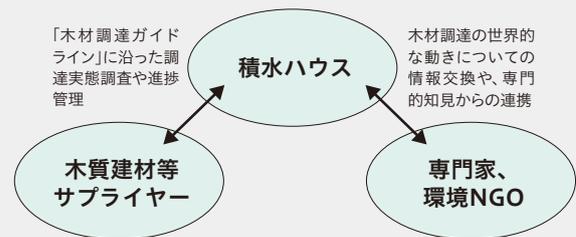


**2 合法で持続可能な木材「フェアウッド」の利用促進**

持続可能な木材利用を可能にするため、伐採地の森林環境や地域社会に配慮した木材・木材製品「フェアウッド※」の調達に取り組んでいます。

「フェアウッド」調達に当たっては、合法性はもとより伐採地の生態系や住民の暮らしまで視野に入れた「木材調達ガイドライン」10の指針を設定。約50社の木質建材サプライヤーに「調達実態調査」を毎年実施し、調達木材の生産地や属性、合法性などを報告してもらい、ガイドラインに沿って数値化することで進捗を管理しています。この取り組みを通してサプライヤー側でも調達ルートへの意識を高め、上流の商社等に対する啓発が進むことで「フェアウッド」の広がりを図っています。

※一般財団法人地球・人間環境フォーラムと国際環境NGO FoE Japanが提唱しています。



活動が社会に及ぼす影響

「5本の樹」計画の推進により、豊かな緑に包まれた快適な暮らしをお客様に提案することで、居住価値の高い住まいを実現できます。また、緑の成長が経年的にもたらす建物の風格が、資産価値向上に有用であるとの認識が強まり、賃貸住宅の共用部などでも緑化が進み、豊かな都市空間が広がります。

また、木材調達の分野では、当社のガイドラインへの対応過程で、サプライヤー各社の調達プロセスへの関心が高まり、自身の木材についてのトレーサビリティ情報の精度が上がっています。これにより高品質な「フェアウッド」の安定的な市場が拡大することで、持続可能な木材の普及につなげることができます。

リスクマネジメント

**リスク① 「5本の樹」計画と同様の提案が業界に広がることで、当社の提案の価値が相対的に低下**

**対応①** 植木生産者ネットワークとの長年の連携を生かし、市場ニーズに沿った樹種の提案を積極的に進めるとともに、設計の提案力向上や施工体制の強化によって、より満足度の高いトータルなエクステリアデザインで差別化を図ります。これにより新しい価値を提案し続けることで、生態系に配慮した緑化の市場をさらにけん引します。

**リスク② 国際的な規制強化により伐採・輸出・流通が制約され、木材の安定調達が困難に**

**対応②** 伐採地の動向などの最新情報は現地の環境NGOが把握していることが多いため、国際環境NGOとのネットワークで情報を捕捉し、その情報を早期に木質建材サプライヤーと共有することで、当社に対する優先的な木材の供給体制を準備してもらうことができます。

# 進捗状況

## 1 「5本の樹」計画による、地域の生態系に配慮した在来種植栽の推進

### 活動報告

#### 「5本の樹」計画を継続的に推進

「5本の樹」計画に基づいて、地域の生態系に配慮した植栽を進めました。2016年度は107万本の樹木を全国の

戸建住宅や集合住宅の庭に植栽し、2001年の取り組み開始時からの累積植栽本数は1306万本となりました。

#### 主要指標の実績(KPI)

指標	単位	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	定義
年間植栽本数	万本	101	106	81	99	107	当社造園緑化における年間植栽本数

#### 年間植栽本数 (万本)



### 評価

戸建住宅の着工減少により植栽本数は減少傾向にあります。しかし、これまで「緑化」がイニシャルコストのアップや管理コストへのマイナス要素と受け止められがちだった賃貸住宅やマンションにおいても、植栽による快適性や経年美化、差異化への貢献が理解され、植栽の増加や緑化提案の質の向上が進んでいます。

これに伴って、緑化植栽を含むエクステリア事業の2016年度の売上高は前年度を1割以上上回る677億円となりました。

#### 今後の取り組み

断熱性の高いサッシの普及によって開口部が拡大していることで、庭の緑は建物自体の付加価値となり、住まい手の快適性への影響も大きくなりつつあります。

そこで当社は「5本の樹」計画による緑化が、住まい手にとってどのような快適さをもたらすかを調べるため、日本各地のお客様とともに、庭に生息する蝶類の調査を継続しています。日本ではあまり例のない、個人の庭レベルでの大規模な調査を通して、生態系の保全と住まい手の快適性に関する可視化を進めていきます。

### TOPICS

#### 「無心庵」がガーデンコンテストで最高位の賞を受賞

2016年10月に開催された「日比谷公園ガーデニングショー 2016」のガーデンコンテストにおいて、当社グループの作品「無心庵」が最高位の「国土交通大臣賞」を受賞しました。



都市で暮らす生活の中にありのままの豊かな自然を共鳴させ、潤いのある空間を創造

### VOICE

#### 街並み景観を「5本の樹」計画から

緑豊かな街並みを歩きますと、どこからともなく野鳥の音がして、なぜか微笑ましく心地よく感じられます。古くからの屋敷街をはじめ、1960年代ごろからの新興住宅地の樹木も生い茂り、豊かな環境をはぐくんできました。しかし、核家族化や土地の高騰などの要因もあって、経済的合理主義が先行し、小分けに分譲されている現在、一本の樹木もなくなり、駐車場スペースだけの無味乾燥な住宅街も散見されます。せめて一本の樹木でも良い。狭い敷地であっても、建物を美的に映すデザインに力を注ぐべきではないかと思います。貴社には、今回の受賞作からもうかがわれるように、樹の性質と性格を理解し、適材適所を考え、それを美的に映す技量も養いつつ、「5本の樹」計画によって、街並みの風景創りを念頭に置いた先駆的な存在となることを期待しています。

ランドスケープ  
アーキテクト

榎原 八朗氏

日比谷公園ガーデニングショー  
ガーデンコンテスト ガーデン部門  
部門審査委員長



## 2 合法で持続可能な木材「フェアウッド」の利用促進

### 活動報告

#### 新たに「生態系の破壊につながる森林破壊をゼロにする (Zero Deforestation)」を視野に「フェアウッド」調達を積極化

2007年4月に策定した「木材調達ガイドライン」に沿って、環境に配慮し、社会的に公正な「フェアウッド」調達に継続的に取り組んでいます。同ガイドラインでは合法性はもちろん、生物多様性や生産地の経済、伐採地の住民の暮らしまでも視野に入れた10の調達指針を設け、各指針の評価点の合計で木材を四つの調達ランクに分類。評価が低い木材を減らし、S・Aランク木材を増やす方向で、「フェアウッド」調達を進めています。なお、コミュニティ林業の育成にも配慮して、認証材だけを単独の調達目標

としていませんが、それでも内装設備まですべての木質建材のうち63%が認証材(認証過程材を含む)となっています。

また、クリーンウッド法の施行に伴い、住宅業界において先駆的に木材調達に取り組んできた企業として、さらに積極的な取り組みが求められると認識し、「生態系の破壊につながる森林破壊をゼロにする (Zero Deforestation)」を新たに長期ビジョンとして掲げました。

#### 「木材調達ガイドライン」10の指針

- ① 違法伐採の可能性が低い地域から産出された木材
- ② 貴重な生態系が形成されている地域以外から産出された木材
- ③ 地域の生態系を大きく破壊する、天然林の大伐採が行われている地域以外から産出された木材
- ④ 絶滅が危惧されている樹種以外の木材
- ⑤ 生産・加工・輸送工程におけるCO<sub>2</sub>排出削減に配慮した木材
- ⑥ 森林伐採に関する地域住民等との対立や不当な労働慣行を排除し、地域社会の安定に寄与する木材
- ⑦ 森林の回復速度を超えない計画的な伐採が行われている地域から産出された木材
- ⑧ 計画的な森林経営に取り組み生態系保全に寄与する国産木材
- ⑨ 自然生態系の保全や創出につながるような方法により植林された木材
- ⑩ 資源循環に貢献する木質建材

#### 調達ランク

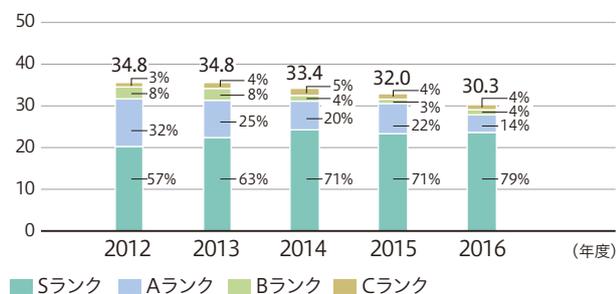
各調達指針の合計点で評価対象の木材調達レベルを高いものから順にS、A、B、Cの四つに分類。10の指針の中で特に重視している①と④に関しては、ボーダーラインを設定。

合計点(最大43点)	調達ランク
34点以上	S
26点以上、34点未満	A
17点以上、26点未満	B
17点未満	C

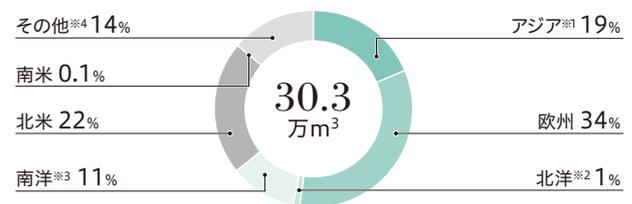
### 主要指標の実績(KPI)

指標	単位	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	目標	定義
「木材調達ガイドライン」SおよびAランク木材比率	%	89	88	91	93	93	95	当社による約50社の主要木質建材サプライヤーに対する実態調査結果

#### 「フェアウッド」調達量とランク内訳 (万m<sup>3</sup>)



#### 伐採地域別割合



※1 アジア: 国産材を含む ※2 北洋: ロシアなど ※3 南洋: インドネシア、マレーシアなど ※4 その他: アフリカ、木腐材を含む

### 評価

2016年度は、管理目標とするS・Aランクの木材の割合は前年度同様の93%でしたが、Sランクの木材の割合が8ポイントアップの79%まで高まりました。

### 今後の取り組み

2017年5月のクリーンウッド法の施行を機に、調達について各サプライヤーの意識は高まりつつあるため、これを好機ととらえて各社へのコンサルティングを強化していきます。